

2020年度 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価					
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	信頼できる学校づくり(教育の質・保護者などへの連絡の正確さ)、子どもの英語教育センターとしての機能の充実(教材・プログラム・人材)	新型コロナウイルス感染症への感染予防対策と子どもたちの学びの機会の保障、その両方を実現させるために、ICTを活用した学校づくりや授業を確立すべく、当初予定していた計画を1年間前倒しして、配備・整備、研修・研究・実践を同時に行ってきた。その結果、この新しい形をある程度まで構築することができたと、一定の成果を感じている。次年度に向けて、更なる整備と研究・実践を継続していきたい。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	ICTを活用しながら教育の質の向上を目指し、また保護者との連携を深める。	外部機関のサポートを受けながら、教員研修を個別に行い、各人のICT活用能力を高めることができた。また、Google Classroomを活用して学校からの連絡を児童・保護者ともに共有できるようにした。新型コロナウイルス感染症による臨時休校の等混乱の中での導入・運用開始となったため、保護者へ十分な説明や準備期間を設けることができなかった。			○		それぞれの教師のICTを活用した授業スキル向上のため、研修やサポートの体制を整える。また更に機器の整備、通信環境の整備を進めていく必要がある。またそれに伴い、保護者会などの更なる充実を図る。
新学習指導要領の全面実施に伴い、より実践的な授業研究・研修を行い、授業の質を高める。	特にICTを活用した授業の研究・実践を重ねたことで、相乗的に全体の授業の質を上げることができた。		○			主体的で対話的な深い学びに向けての研究・実践を継続する。	

領域	対象	目 標	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育課程	新学習指導要領を踏まえたカリキュラムの運用。新英語カリキュラムの実践。新評価基準に則った指導と評価の一体化の促進。	新カリキュラムに則った指導が実践できたか。新しい評価の観点に則って評価することができたか。	新指導要領に則ったカリキュラムの運用を開始することができた。各教科ごとに評価基準を改定し、新たな観点で評価を行い指導に反映させることができた。		○			今年度の実践を踏まえ、英語カリキュラムのさらなるブラッシュアップとより効果的な指導の方法の探究を継続する。
	教科指導	教科の中でICTを効果的に用いるための授業研究・実践に取り組む。	教科において実践することができたか。	授業の中で様々なアプリやサービスを用いて実践研究を重ねることができた。		○			得られた経験を教員共有のものとしていくための研修を、今後も継続的に行っていく。
		英語で行うことが中心の1～3年生のMath(算数)の授業において、特に概念理解の部分に注力して研究・実践を行う。	研究と実践を行うことができたか。	習熟の状況については日本語でテストを行うなどしてその都度、確認しながら進めてきた。単元によっては日本語での授業を先行するなどの工夫を行ってきた。		○			引き続き授業の進め方について研究・実践を行っていく。
		英語と日本語の両方を用いて指導する理科(Science)の授業において、2つの言語を効果的に組み合わせる指導方法の研究・実践を行う。	研究と実践を行うことができたか。	English Scienceで行った実験の結果を日本語の授業で改めて確認し、内容の理解を助けた。		○			Englishのみでは内容理解に不安のある児童もいるため、児童の理解の状況について教員間の密な連携が不可欠である。
児童支援・指導	学校の方針である「自分の気持ちを相手に伝える。相手の気持ちを受け止める」ことを実践する。また特に配慮が必要な児童については、外部機関やスクールカウンセラーとチームを組んで指導に当たる。	それぞれの教員が学校の方針に従って児童指導に取り組めたか。また、外部機関やスクールカウンセラーと連携しながら、指導に当たることができたか。	それぞれの教員が学校の方針に従って児童指導を行えるように、校長から学校の方針について教員に伝える機会を設けた。また、児童指導の担当者を軸に、外部機関やスクールカウンセラーと保護者・学校との連携を促した。		○			児童指導についての学校の方針の理解をより深めるため、学園長の著書全文の英訳をEnglish Teachersとともに完成させる。また、スクールカウンセラーや外部機関との連携体制を強化し、更なる児童支援体制の構築を目指す。	
学校運営	地域との連携	地域と連携した学習を、生活科など英語で行う授業の中で実施する。	英語で行う授業の中で地域と連携した学習を行うことができたか。	2年生の生活科の学習で、近隣の相原高校との連携プログラムを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から今年度は中止とした。			○		次年度についても新型コロナウイルス感染症の感染予防対策が必須なことは予想されるので、地域との連携の仕方について改めて検討する。
	研修	ICTの活用の仕方についてより実践的な研修を行う。外部機関に入ってもらい、教員のICT活用能力を高めるための研修を行う。オンライン授業や実際の授業で、iPad、Chromebookを活用してより学習の成果の高まる授業の実践を行う。	教員のICT活用能力を高める研修を行い、学習効果を高める授業実践へとつなげることができたか。	休校期間中のオンライン授業を全教員が行うことができた。再開後は個別に研修を重ねる中で授業の中でICTを活用した取り組みが意欲的にできる雰囲気が育ってきた。		○			来年度以降の本格的なICT機器の活用に向けて、それぞれの実践を共有していく。